

宮崎県の方言を未来に残そう！

班員 長友由奈 竹崎真帆 指導者 永吉彩芽先生 森田康平先生
霜見琉美奈 興梠祥 小野雅史様



研究の動機

- ・宮崎県の方言に世代間のギャップを感じ、そのギャップについて調べたいと思ったから。
- ・宮崎県の方言は地域共同体にとって重要な要素だから。

研究の目的

- ・無くなりつつある宮崎県の方言を残していくため。
- ・宮崎県の使われなくなった方言はなぜ使われなくなったのか知るため。

研究で明らかにしたいこと

- ・なぜ宮崎県の方言は使われなくなってしまったのか。
- ・どのくらいの割合の人が方言を使っているのか。

先行研究

マスメディアやインターネットの発達により、子供たちが共通語に接する機会が多くなった代わりに、方言に接する機会が少なくなった。

若者の人口が地方から都市部へ就職や進学のために減少している。

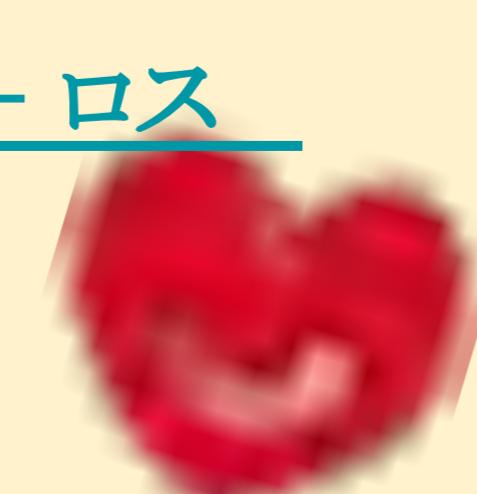
仮説

- ・若者のスマホ依存により共通語を見聞きすることが増えて、方言を使う機会が減っているのではないか。
- ・そもそも知らない方言が増えているのではないか。
- ・知っていても共通語を使う方が良いと感じているのではないか。

参考文献

閲覧日 6月6日(金)
[母国語がなくなる？世界で言語が減少している理由 - ロスゼロ](#)

https://losszero.jp/blogs/column/col_174



研究方法

- ①班メンバーの祖父母や親に知っている宮崎県の方言を聞いて、その方言から4つを無作為に選ぶ。
- ②4つの方言をアンケートで調査する。
- ③結果から方言が使われなくなっている原因を考察する。
- ④原因から残す方法を考える。

研究結果 延高1・2年のうち59名回答

もぞなぎい (可哀想)

認知度 32.2% 使用度 21.1%

しんきなー (悔しい、腹が立つ)

認知度 11.9% 使用度 0%

よだきい (面倒くさい)

認知度 98.3% 使用度 60.3%

ぞうらくなー (楽だ、簡単だ)

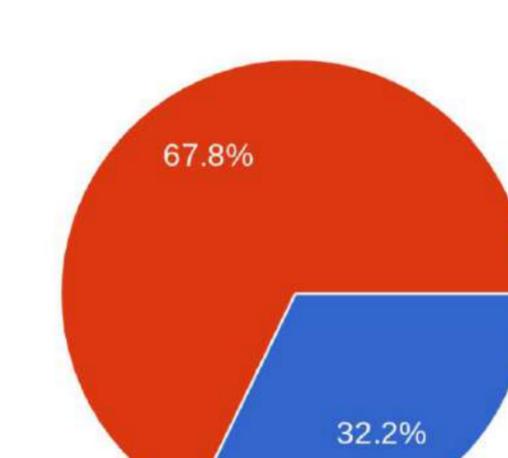
認知度 16.9% 使用度 10%



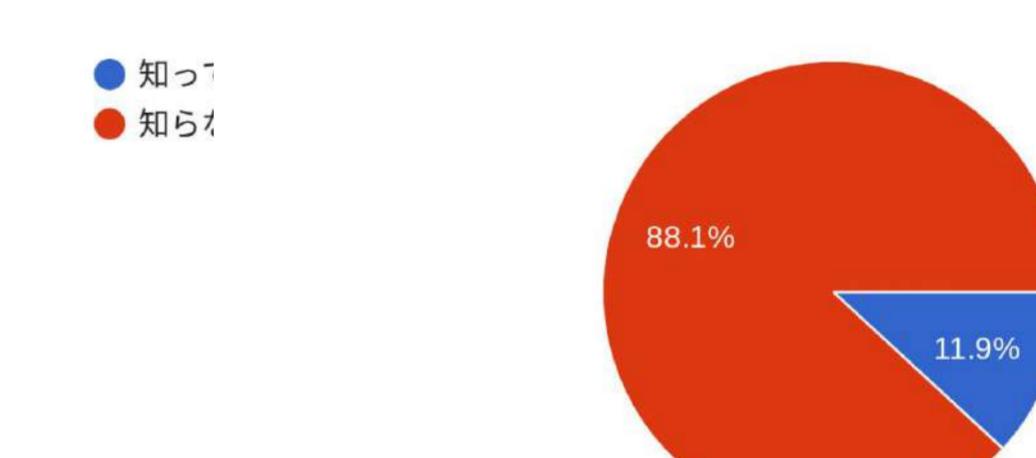
★知っているのに使わない理由

- ・相手に伝わらない
- ・周りが使っていない、恥ずかしい
- ・お年寄りのイメージがあるなど

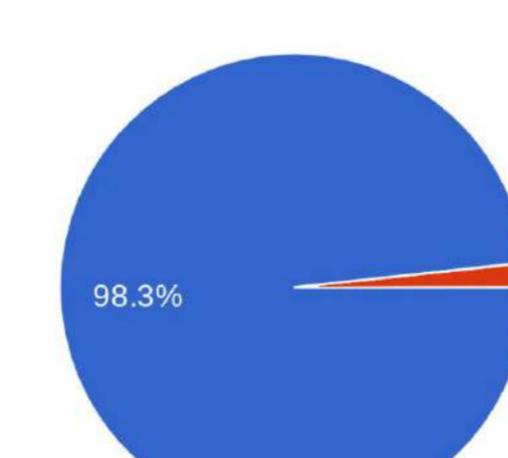
『もぞなぎい』について
59件の回答



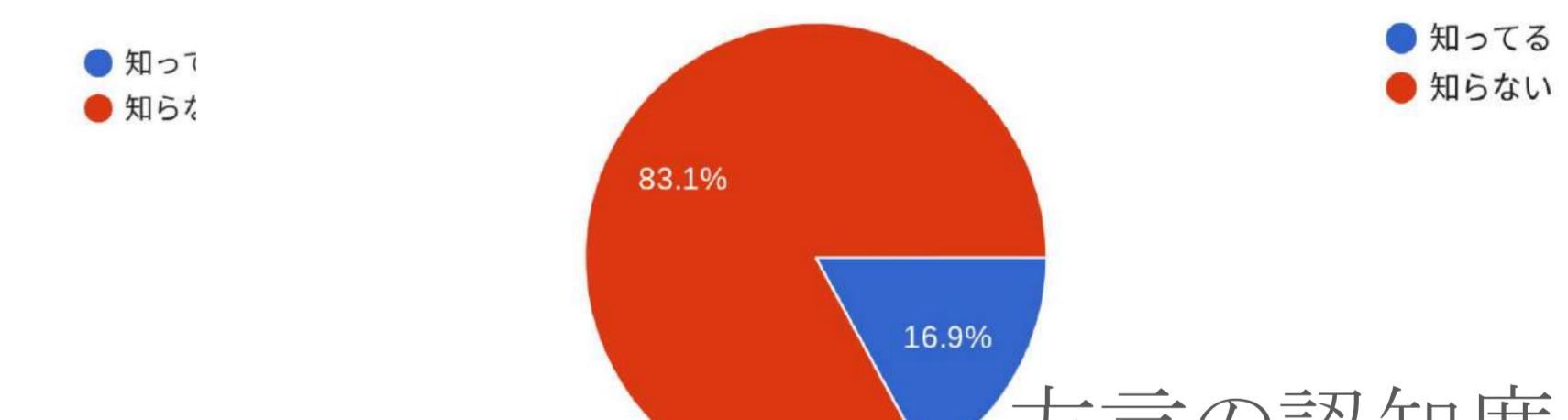
『しんきなー』について
59件の回答



『よだきい』について
59件の回答



『ぞうらくなー』について
59件の回答



考察と今後

方言に接する機会が少ないのではないか。今後、方言に接する機会を増やすために老人ホームなどで高齢の方との交流の場を設けると良いのではないか。



謝辞

私たちの研究に協力して下さった皆様、本当にありがとうございました。